人権・同和教育シリーズ ⑫192

問い合わせ先
人権啓発・男女共同参画推進課
☎0968(25)7209

「鬼滅の刃」から考える

地域人権教育指導員　平井靖彦

6月16日に映画「鬼滅の刃～無限列車編～」のDVDが発売されました。この映画はニュースでも大きく取り上げられたように興行収入の記録を塗り替える大ヒットとなりました。家族を鬼に殺され、妹を鬼にされてしまった主人公の少年が、妹を人間に戻すためになかまと共に鬼たちと戦っていく物語です。

私も映画を観に行き感動しましたが、少し気になることもありました。その中の一つに「手短に」という言葉があります。今回の映画の主役ともいえる煉獄杏寿郎という人物が「手短に言おう」という言葉を発する場面が複数回出てきます。現在、「手短に」という言葉は公的な研修の場などではまず使われることはありません。それは、当事者のみならず、この言葉を不快に感じる人がいるからです。

この言葉以外にも、体の一部や身体的特徴を比喩的に使う言葉がたくさんあります。その全てが使うべきではないということではありません。大事なことは「この言葉に不快な思いを持ったり、傷ついたりする人がいるかもしれない」という想像力です。

「手短に」という言葉は「簡単に」「簡潔に」などと言い換えることができます。言い換えることができるのであればあえて不快に思わせる可能性がある言葉を使う必要はありません。同じように体の一部や身体的特徴で表現される言葉について考えてみてはいかがでしょうか。

もう一つ気になったことがあります。それはこの映画の主人公の少年が「長男だから」という言葉を多用することです。「長男だから○○しなくてはならない」という場面がたくさん出てきます。長男であることは悪いことではないし、そこに責任感を持って生きていこうとすることも悪いことではありません。しかし、この「長男だから」という言葉がいろいろな「しばり」につながるのではないかと心配もします。

日本では、かつてそういう時代がありました。長男は「家の跡継ぎ」という使命を担っていました。これは「家制度」の問題で、長男のこと以外にもさまざまな問題が指摘されてきました。女性の役割の問題や相続の問題など、なかなか難しい問題がたくさん含まれています。

戦前の社会では、家庭での女性の重要な役割は子どもを産み育てることでした。男は「家長」として家族を養うことを求められました。社会の価値観として「家族の在り方」が固定化され、そこに当てはまることが「良し」とされたのです。その結果、現在では「それは差別だよね」ということも、当時は当たり前のようにあったのです。

ここで考えたいのは「家族の形やあり方はさまざま」ということです。個人の生き方も、家族の在り方も自由なはずです。それぞれが思うように、何にも縛られない生き方ができる社会であってほしいと願います。

「鬼滅の刃」の舞台は大正時代です。言葉や家族の在り方の問題も当時であれば当たり前であったかもしれません。この映画が多くの人に感動を与え、受け入れられたからこそ、そこから学ぶこととして言葉や家族の在り方について立ち止まって考えたいものです。

韓国発見シリーズ ㊶
こんにちは金です

国際観光マネージャー
金相廷

「真のVIP」とは？

最近、私が感動した一つの記事を紹介したい。韓国で有名な記者兼作家である某氏が急だったが重要な要件で、ある大企業の会長をインタビューした。インタビュー後、会長が記者に「普段ならタ食にお誘いしたいところですが、今日は重要な〝VIP〟と先約があるので…。次回は必ず食事もご一緒しましょう」と言ったそうだ。

作家はその「VIP」に興味が湧いて「もしかして外国の政治家か企業の会長ですか？」と尋ねた。会長は笑いながら「違います。私の家族です」と答えた。この言葉に作家は感動し、自分もその日の他の約束をすべて取り消し、「VIP」に会いに家に帰ったという。

翌朝その記者は出勤する準備をしながら、妻に「明日は僕の知り合いの中でも最高のVIPとタ食を外で食べることにするよ」と話した。妻は「楽しい会食になると良いわね。ところでその方はどなた？」と聞いた。記者はすかさず「君と子どもたちだよ」と言った。その後、妻は歌を口ずさみながら幸せそうに掃除をしていたという。

私も家族は大切にするべき「VIP」ではないかと思う。家はくつろぎや安心を与えてくれる場所だ。仕事で緊張して神経がギシギシになって帰っても、シャワーを浴びると緊張が緩む感覚にならないだろうか。宿題を山ほど出され、重いかばんを抱えて家に帰っても、玄関に入り荷物を置くとホッとして心が落ち着く。

おじいちゃんの機嫌の良い顔、おばあちゃんのおしゃべり、妹が学校で習ってきたことを大きな声で復習する様子などは、まさに「家庭」を愉快にする。自分がくつろぎ、複数の家族もそれぞれの居場所でくつろぐ。同じ空間と時間と経験を共有する家族は大切にするべきVIPの中の「VIP」と言える。

私が幼少期に育った家は粗末な家だったが、今も思い出すのは家の中での楽しかった出来事だ。今まで私のそばで私を愛してくれた人、これからもずっと私のそばにいてくれる人。その人がまさに自分にとっての「VIP」である。

◆シリーズ◆
菊池一族の遺産

問い合わせ先　菊池一族プロモーション室 ☎0968(25)7267

16代 菊池武政

武政は15代武光の長男で、23歳頃の子と考えられています。まだ武光が豊田荘（現熊本市南区城南町）で豊田十郎と呼ばれていた頃で、3歳の時、父と共に菊池入りを果たしました。猛将と呼ばれた父に従ってよく戦い、17歳の時、日本三大合戦の一つ、筑後川の戦い（大保原・大原合戦）に臨んでいます。

筑後川の戦いは、1359（正平14）年7月に始まった戦ですが、相手も菊池を警戒していたため、長いにらみ合いが続き、この状況を打開するためにある作戦が組まれました。8月6日夜半、武光の命により、武政は300騎の精鋭を引き連れて敵方の本体への夜襲を決行。これが引き金となり、南朝方4万騎、北朝方6万騎が戦ったとされ、日本三大合戦の一つにも数えられる大戦が起こりました。

この戦の2年後、征西府は大宰府を制圧して拠点となし、菊池一族は最盛期を迎えます。1367（正平22）年、武光は存命でありながら、当主・肥後守の地位を武政に譲りました。自分は征西府の侍大将としての職に集中し、肥後の内政や一族のことは武政に任せたということが推測できます。当主になった武政は、それまで深川にあった本城を守山城（現菊池神社）に移したと伝えられています。これ以降、隈府が本城の城下町として整備されていくことになります。

一族の黄金時代は、室町幕府が派遣した智将・今川了俊によって崩されました。北朝勢による包囲網の下に大宰府は陥落。その前後に武光も死亡したと見られ、武政の決死の奮闘の様子が当時の文書に残されています。

しかし、征西府が武光の死を公表したわずか半年後、武政も後を追うように亡くなりました。戦の傷が原因だったのではないかといわれています。武光の片腕として深く信頼され、父亡き後の難しい時期を切り回していた武政の死が、いかに一族、そして南朝方にとって大きな打撃となったかは想像に難くありません。

16代 菊池武政

◆絵画連作◆ 幻の都 城下町菊池

絵・文／橋本以蔵

第二章 菊池十八外城 ～菊池本城を守る砦～

古池城

別名を出田城。「出田鬼石古墳」が場内に残されており、城は俗に「鬼石」と呼ばれていました。出田氏の館の背後の段階状の郭の配置は現存し、見学することができます。単純な郭構成ですが、さらに背後の山にも郭が存在したのかもしれません。

わいふー番館

問い合わせ先　わいふー番館 ☎0968(24)6630

原式押し花絵菊池グループ展　可憐な花たちに語りかけながら心を込めて創作しました。　**期　間**　～9月12日㈰

遙悠会書道教室・松本隆子書道教室　小学生の力作をどうぞご覧ください。　**期　間**　9月14日㈫～26日㈰

開館時間　午前9時～午後5時
休 館 日　月曜日（祝日の場合は翌日）

菊池観光協会

問い合わせ先　菊池観光協会 ☎0968(25)0513

第1弾飲食応援チケットの有効期限は9月30日㈭！

市内の飲食店で使えるお得な「きくち飲食応援チケット」。第1弾の有効期限は9月30日㈭です。お早めにご利用ください。第2弾は10月1日㈮から販売予定です。

開館時間　午前9時～午後6時
休 館 日　第4火曜日（点検などで臨時的に休館する場合あり）

◆シリーズ◆ 交流の絆 ⑱

申し込み・問い合わせ先　市長公室 ☎0968(25)7252

菊池国際交流の会を紹介します

菊池市は、韓国の金堤市と清州市、中国の泗水県と友好都市の締結をしています。菊池国際交流協会では、韓国2都市との市民交流を目的として、市民交流団の派遣や受け入れを行うなど、交流を続けています（昨年度は新型コロナウイルス感染症の影響で派遣や受け入れは中止）。

他にも、市内在住の外国人と交流を図る「インターナショナル・ファン・デイ」を開催しています。昨年度は会員限定で開催。外国人が浴衣の着付けや伝統的な遊び「投扇興」を体験し、日本文化に触れてもらいました。

国際交流に興味がある人は、一緒に楽しく活動しませんか。

昨年度のインターナショナル・ファン・デイ